

澄んだ瞳

第80号
令和7年12月号

発行
相生市教育委員会
相生市人権教育研究協議会

12月4日から10日は人権週間です。
令和7年度 啓発活動重点目標

「誰か」のいじやない。

「誰か」のいじやない。

人権問題の解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を、自分以外の「誰か」のことではなく、自分のこととして捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて、認識を深めることが不可欠です。

「ありがとう」

たてわりきぬうしよへい
いはんをいれぬうしよへい



「おお。」「おへな。」「

おしえてくれぬ。

ほつじだ。

たてわりきぬうしよへい

きいたら、おしえてくれてよかった。

いっしょに学校しよへい

おしらせを見にいってくれる。

「しんぱい」が「うれい」にかわった。

(小学一年生)

「スマミー」

わたしがすきな場面は、だいの場面です。なぜかうしよへい、スマミーはみんなちがってまっ黒なのいきょうだいたちはスマミーをいじめなへうて、スマミーをひとのぼちちになくてスマミーとたのしくいっし

だいがいるならいんをいせしきょうだいがほつじです。

(小学二年生)

「やせいの人になぬ」

ほくはやせいの人になりたいです。

まえにほくが、まちがえた時に、友達にきつい言葉を言われてかなしい気持ちになりました。

でも、他の友達に「おしえてあげぬ。」

「おしえてい。」と「言わねい」

気持ちになったじよもありません。

言葉しよへいをいじめなへうて

おしえて、ほくはせいの人なぬと思いました。



「ほくは、「ありがとう」「や」「だ」「じょうぶ」などの言葉をたいせつにして大きくなってくださいと思います。」

「これからほくは、「じまっている人を見つけたい時はやさしい心をわすれずにいたいと思います。だれかかなしい時はいっしょにいてあげて、みんなのためのしくわらって学校に行きたいと思います。」

(小学三年生)

「思いやりの花」

わたしは、五月から足の骨をこすり、骨がはいついてしまいました。わたしは二週間、足の骨をギブスで固定して、松葉づえを使って歩くことになりました。

学校では、くつのはきかえやかいだんの上り下りがたい入んでした。でも、学校の中や外に出るときは、友だちが、「さうじやうに行ってくださいか。」

と声をかけてくれたり、

「じまったことがあれば言っただけ。」

と言ってくれたりして、いろいろ手伝ってくれました。他にももつを持ってくれたり、

給食をほんでくれたり、どんな小さなこどもも助けてくれて、その時自分は、

「ありがとう」と言いつつ、みんな「やさしいな」と思いました。

からかったり、助けてくれない友だちは一人もいませんでした。松葉づえで学校に行くことになった時、さいしょは不安だったけど、行ってみたら、いやだと思っことはありませんでした。

「ほんとにみんな心が温かいな。」

と思いました。これから、「じまっている子やたいへんそうな子にあの時のことを思い出して全員がえがおされるようにわたしも助けてあげたいです。」

(小学三年生)

「助け合いは大切」

わたしは帰り道のとちゅうで、おばさんが坂道でつまずいて転ぶところを見ました。

「お母さんがおばさんに大丈夫ですか。」

と声をかけました。おばさんは手や足にけがをしていて、辛そうな顔をしていました。

私はその様子を見て、

「助けてあげたい」と思いました。

私はおばさんが病院に向かう車をまつ間、

「寒くないかな。」

と思い、着いたジャンパーをおばさんにかけました。すると、おばさん、

「ありがとう。」

とすこくうれしそうに顔で言ってくれました。わたしもそんなおばさんを見て、

「自分はいいことをしたんだ。」



どうれしい気持ちになりました。

助け合うことで、自分も相手もうれしい気持ちになれる。助け合いってとても良いことなんだと気づきました。これからはわたしは人と助け合いたいと思いました。

(小学四年生)

「お母さんが言ってくれた言葉」

私は去年のマラソン大会で走っていたら、お腹が痛くて泣いてしまいました。その時にコースの横でお母さんが全力で応援してくれました。そして、私は応援のおかげで何とかゴールまで行けましたが、やっぱりお腹が痛かったので保健室に行きました。

その時、お母さんが保健室に来てくれて、私をだきしめてくれました。でも、お母さんの顔を見ると、泣いているのに気が付いて、お母さんに何で泣いているのかを聞いてみる。

「よく頑張ったから!」

と言っていました。私は、「お母さんは、私があきらめずに走ったからうれしかったんだろうな。」

と思いました。

その日からお母さんの

その言葉が今でも大好きです。

(小学六年生)



「いじめサミットに参加して」

八月二十五日に相生市の各小中学校の代表が集まって話し合う、いじめサミットに参加しました。僕の通っている中学校は、

人数も少なく、人間関係も良好だと僕には見えていました。そのため、今までいじめというものに実感が湧きませんでした。今回のサミットで、いじめの実態を知れることはとても良かったと思います。

このサミットでは、いじめの実態を知り、

いじめをなくすためにできることを話し合

いました。話し合う上で、「否定しない」、

「長く話すぎない」、「意見を尊重する」

というルールがありました。僕はこのルール

が本当にいいものだと思います。このルー

ルのおかげで、僕は自分の意見を気軽に言う

ことができました。そして、そんな環境を学

校にも作りたと思います。自分の意見を

主張して、他の人が受け入れてくれる環境

を作るのは、いじめを減らすことにつながる

と思ったからです。これからもいじめのない

みんなが安心して楽しく過ごせる学校を目

指していきたいです。

(中学三年生)

「インプロワークショップ体験を振り返って」

今日はインプロワークショップという全校生が対面でコミュニケーションをこる行事ははじめて体験しました。この体験で行ったことは三つあります。一つ目は自分の

「考え・感情・個性」を「言葉・表情
身振り手振り・声のトーン」などで相手に
伝えること。二つ目は相手の立場になって
気持ちを理解すること。三つ目は自分の意
見を適切に伝えつつ、相手の意見を受け入
れようとすることです。

この体験を通して、みんなが笑顔になっ
ていたし、一緒にクラスだけとあまり話し
たことのない人が、すごく笑っていて、こ
んなに笑っている所を初めて見ました。他
学年の人達とも思っていたより話ができ
し、知らなかった所をたくさん知ることが
できました。先生とも立場を気にせず遊べ
たのは初めてで本当に楽しかったです。私
も辛い気持ちや悲しい思いになることがあ
ります。この体験を通して、徐々に本気で
笑えたので本当に良かったと思いました。
(高校一年生)

「人権講演会を聞いて」

今日の講演会を聞いて、よしのインターネ
ットの使い方について考える必要があるな
と思いました。普段スマホを毎日使い、SNS

も毎日見ているので、近いところに大きな
危険が隠されているのだなと感じました。
今までSNSのトラブルは経験したことがあ
りませんが、友達は経験していたりするの
で、講演や友達から学んだことをいかして
大人になりたいと思います。

SNSはお互いの顔を見ずに言い合うことが
できてしまいます。消しても消えない発言
など怖いところがたくさんあるので、発言
にはより一層気をつけたいと思いました。
インターネット上での犯罪で友達の関係を
長い間続け、それが犯罪目的だったという
ケースの話聞いて、犯罪の手口は様々あ
り、巧妙なものが増えていくことに驚き
ました。そのような問題に巻き込まれない
ように、ニュースや色々な人の情報を得
て、対策しようと思えました。また、
犯罪の入り口に入ってしまったも、気づい
たらすぐに相談することの大切さも教えて
いただきました。



人権週間

12月4日(木)～10日(水)

国際連合は、世界人権宣言の採択を記念
して、採択日の12月10日を「人権デー
（Human Rights Day）」と定めました。

法務省及び全国人権擁護委員連合会は、

「人権デー」を最終日とする1週間を

「人権週間」と定め、世界人権宣言の意義

を訴えるとともに、人権尊重思想の普及

高揚に努めています。

かていたいわ

家庭対話ウィーク

12月4日(木)～10日(水)



心と心を受けとめ合う会話、肌と肌で

感じるぬくもりのあるふれ合い。安心して、

お互いの気持ちを話し合う場所が家庭です。

家庭は人権文化の最前線とも言われます。あ

ただかい家族の関係をみんなで育んでいき

たいですね。